

## 平成22年3月期 第3四半期決算短信

平成22年2月5日

上場会社名 東洋インキ製造株式会社

上場取引所 東

コード番号 4634 URL <http://www.toyoink.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 佐久間 国雄

問合せ先責任者 (役職名) 取締役財務担当

(氏名) 青山 裕也

TEL 03-3272-5731

四半期報告書提出予定日 平成22年2月12日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成22年3月期第3四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年12月31日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第3四半期	168,162	△10.9	10,111	147.9	10,198	180.8	5,054	—
21年3月期第3四半期	188,784	—	4,079	—	3,631	—	△2,257	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円銭	円銭
22年3月期第3四半期	16.74	—
21年3月期第3四半期	△7.46	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円銭
22年3月期第3四半期	272,458	140,744	49.6	453.13
21年3月期	260,689	137,022	50.5	435.61

(参考) 自己資本 22年3月期第3四半期 135,229百万円 21年3月期 131,750百万円

## 2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円銭	円銭	円銭	円銭	円銭
21年3月期	—	5.50	—	4.50	10.00
22年3月期	—	4.50	—	—	—
22年3月期 (予想)	—	—	—	5.00	9.50

(注)配当予想の当四半期における修正の有無 無

## 3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円銭
通期	225,000	△6.2	12,000	221.4	11,900	391.6	5,800	—	19.26

(注)連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

#### 4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 無

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

- ① 会計基準等の改正に伴う変更 無
- ② ①以外の変更 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	22年3月期第3四半期	303,108,724株	21年3月期	303,108,724株
② 期末自己株式数	22年3月期第3四半期	4,676,500株	21年3月期	655,559株
③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間)	22年3月期第3四半期	301,997,178株	21年3月期第3四半期	302,474,816株

#### ※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- 平成21年11月6日に公表いたしました連結業績予想について本資料において修正しております。当該予想に関する事項につきましては、5ページ【定性的情報・財務諸表等】3. 連結業績予想に関する定性的情報 及び本日公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。
- 上記に記載した予想数値は、本資料発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としております。実際の業績は、今後の様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等につきましては、5ページ【定性的情報・財務諸表等】3. 連結業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

## 【定性的情報・財務諸表等】

### 1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間における世界経済は、「リーマン・ショック」を機とした危機的状況から、中国などの新興国では急速に持ち直しつつある一方、欧米では信用収縮や雇用の悪化により回復が遅れています。またわが国の経済も、一部には景気回復の兆しが見られるものの、設備投資や個人消費の低迷やデフレの進行など、依然として厳しい状況が続いています。

この厳しい事業環境のもと、当企業グループは、「逆境の中、モノづくりの原点に立ち戻り、新しいモデルで突破する」をスローガンに、攻めのモノづくり企業への進化を追求しつつ、総固定費の削減や原材料を始めとする諸資材の調達手段の改善などによる徹底的なコストダウン施策を進めてまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は1,681億62百万円（前年同期比10.9%減）と減収になりましたが、利益面では、営業利益が101億11百万円（前年同期比147.9%増）、経常利益が101億98百万円（前年同期比180.8%増）、四半期純利益が50億54百万円（前年同期は22億57百万円の純損失）と増益になりました。

#### セグメント別業績状況

##### (1) 事業の種類別

###### ① 印刷インキ事業

オフセットインキは、国内では、主力の枚葉インキやオフ輪インキが印刷市場の構造的不況から脱却できず、年末の繁忙期に若干回復したものの、期初からの累計では大幅に販売量が減少しました。また紙器用のUVインキは堅調でしたが、新聞インキはカラー広告や部数・ページ数の減少に歯止めがかからず苦戦が続きました。海外でも、中国、東南アジア地域で回復が進んだものの、好調でした前年同期には及ばず、世界的な不況の影響を最も受けた1～3月を対象期間とした第1四半期からの累計では、大幅な減収になりました。

グラビアインキは、国内では出版や建装材用インキ、溶剤販売が減少しましたものの、主力の食品包装用は需要が堅調に推移しましたうえ、顧客の環境に対するニーズの増加により、ノントルエンインキや水性インキの拡販が進みました。また海外では、第1四半期は販売量が落ち込みましたものの、第2四半期以降は中国や東南アジア地域での食品包装用の需要が回復してきました。

これらの結果、当事業全体の売上高は729億30百万円（前年同期比11.0%減）と減収になりましたが、国内外とも生産や物流工程を中心にコストダウンを進め、営業利益は69億21百万円（前年同期比69.1%増）と増益になりました。

###### ② グラフィックアーツ関連機器及び材料事業

グラフィックアーツ関連機器は、商業印刷や新聞印刷用の小型機器は伸長しましたが、大型機械は国内印刷市場の低迷から設備投資が抑えられ、低調に推移しました。

グラフィックアーツ関連材料は、POD（プリント・オン・デマンド）関連やCTP（コンピュータ製版）用材料が伸長しましたが、その他の材料は印刷市場の低迷と価格競争の激化により伸び悩みました。

これらの結果、当事業全体の売上高は182億23百万円（前年同期比8.6%減）、営業利益は2億26百万円（前年同期比50.0%減）と、減収減益に終わりました。

###### ③ 高分子関連材料事業

缶用塗料（フィニッシュ）は、国内では冷夏により飲料缶用が伸び悩みました。また海外も需要の回復が進んだものの、前半の落ち込みをカバーするまでには至りませんでした。樹脂は、高付加価値製品の拡販が進みました一方、建築関連向けが住宅需要低迷により伸び悩みました。

接着剤関連は、包装用が堅調なうえ、ディスプレイ向けやエレクトロニクス向けが前半は低調でしたものの、需要が急速に回復、拡販も進みました。塗工材料は、貼る塗料のマーキングフィルムは広告需要の低迷により伸び悩みましたが、前期から販売を開始した電磁波シールドフィルム（TSSシリーズ）の拡販など、エレクトロニクス向けが伸長しました。

これらの結果、当事業全体の売上高は376億71百万円（前年同期比7.9%減）と減収になりましたが、高付加価値製品の拡販と強力なコストダウンを進めましたため、営業利益は52億47百万円（前年同期比114.1%増）と増益になりました。

#### ④ 化成品及びメディア材料事業

汎用顔料は、国内、海外とも印刷インキの需要低迷により伸び悩みましたが、高機能顔料は、中国や国内での液晶ディスプレイ用を中心に需要が急速に回復、拡販も進みました。

プラスチック用着色剤は、容器用が堅調に推移しましたが、自動車向けは回復基調にあるものの、前半の低調を補うまでには至りませんでした。

液晶ディスプレイカラーフィルター用材料は、前半は低調に推移しましたが、中国での需要喚起や国内での助成金制度（エコポイント）の影響もあり、テレビ用を中心に急速に販売が回復しました。またインクジェット材料も、広告需要の減少と機器メーカーの内製化などにより、前半は低調に推移しましたが、第3四半期に入り需要回復の兆しが見えてきました。

これらの結果、当事業全体の売上高は385億84百万円（前年同期比14.1%減）、営業利益は48億66百万円（前年同期比6.2%減）と、減収減益に終わりました。

#### ⑤ その他の事業

ササエクスを利用した製品では、飲料、石鹼、マスクに加え、飼料用の拡販も進みましたが、その他の商品販売が低調で、当事業全体の売上高は44億29百万円（前年同期比20.3%減）、営業利益は41百万円（前年同期比62.9%減）と、減収減益に終わりました。

### (2) 所在地別

#### ① 日本地域

オフセットインキや印刷インキ用の汎用顔料は、第3四半期に入り輸出を中心に回復してきたものの、前半の低調をカバーするには至らず、またグラフィックアーツ関連機器及び材料の販売は、終始低調に終わりました。さらに缶用塗料（フィニッシュ）やプラスチック用着色剤、インクジェット材料などの需要も、回復基調にはあるものの伸び悩みが続きました。

一方、エレクトロニクス向けやディスプレイ向けの高機能顔料、接着剤、塗工材料、カラーフィルター用材料は、国内需要、輸出とも急速に回復、拡販も進みました。また包装用のグラビアインキや接着剤は、終始堅調に推移しました。

これらの結果、売上高は1,355億73百万円（前年同期比6.3%減）と減収になりましたが、高付加価値製品の拡販と徹底的なコストダウンを進めましたため、営業利益は78億40百万円（前年同期比449.1%増）と増益になりました。

#### ② アジア・オセアニア地域

海外については決算期のズレにより1～9月を対象としているため、前半は世界的な大不況の影響を最も受けた時期となります。このため、当地域でも第1四半期は主要製品が軒並み低調に推移、第2四半期以降は中国や東南アジアのオフセットインキ及びグラビアインキ、台湾の液晶ディスプレイカラーフィルター用材料などを始めとして、急速な回復が進みましたが、これを補うまでには至りませんでした。

この結果、売上高は420億15百万円（前年同期比17.6%減）と大幅な減収に終わりました。また営業利益も24億4百万円（前年同期比8.7%減）と減益になりましたが、高付加価値製品の拡販とコストダウンを進めた結果、第3四半期3ヶ月では大幅な増益に転じています。

#### ③ ヨーロッパ地域

汎用顔料から高付加価値製品への構造改革を進めた当地域も、主力の高機能顔料が世界的な大不況の影響や、在庫圧縮のための生産調整により、低調に推移しました。また、拡販を進めているオフセットインキやプラスチック用着色剤も、当地域の景気回復の遅れにより伸び悩みました。

これらの結果、売上高は17億14百万円（前年同期比40.2%減）と大幅な減収になり、懸命なコストダウンを進めたものの、営業損失も6億43百万円（前年同期は6億10百万円の営業損失）と若干拡大しました。

#### ④ 北米地域

世界的な大不況から回復基調にはあるものの、未だ前年同期の需要水準から大きく乖離しており、オフセットインキや建装材向けのグラビアインキ、自動車向けプラスチック用着色剤などの主要製品が低調に推移しました。

この結果、売上高は43億53百万円（前年同期比22.1%減）と大幅な減収になりました。また、テキサス州の新製造所開設に伴う先行費用も発生しましたため、営業損失は1億84百万円（前年同期は22百万円の営業損失）と拡大しました。

## 2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間の総資産の期末残高は2,724億58百万円で、期首残高より117億69百万円増加しました。負債の期末残高は1,317億14百万円で、期首残高より80億47百万円増加しました。純資産の期末残高は1,407億44百万円で、期首残高より37億21百万円増加しました。

当期末日が休日のため売上債権、仕入債務が増加したほか、株式市況の回復により投資有価証券、その他有価証券評価差額金が増加、繰延税金資産が減少しました。また、手許資金の増強の結果、現金及び預金、有価証券が増加しました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第3四半期連結累計期間の現金及び現金同等物(以下「資金」といいます。)の期末残高は、期首残高より123億74百万円増加し、248億42百万円となりました。

営業活動により得られた資金は215億70百万円となりました。税金等調整前四半期純利益などによる資金増加に加え、たな卸資産を減少させたことなどにより資金が増加しました。一方、当期末日が休日のため売上債権、仕入債務が増加したことによる資金増減がありました。

投資活動により使用した資金は41億46百万円となりました。これは主に、有形固定資産の取得に伴う支出によるものですが、前年同期と比べ大幅に圧縮しています。

財務活動により使用した資金は50億19百万円となりました。配当金の支払に伴う支出や、当第3四半期に行った自己株式の買付けに伴う支出などによるものです。

## 3. 連結業績予想に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間は、依然として厳しい世界経済の状況が続くものの、中国などの新興国が回復基調にあるなど、一部には明るい兆しも見えてきております。当企業グループの事業環境においても、国内印刷インキ市場は伸び悩みましたが、ディスプレイやエレクトロニクス関連市場では需要が急速に回復するとともに、拡販も進みました。

また、利益においては、今後、原料価格の上昇や円高による圧迫などが懸念されるものの、コストダウンや高付加価値製品の拡販によって収益構造の改善が進んでおります。

このような状況を勘案し、本日同時に公表しました「業績予想の修正に関するお知らせ」のとおり、通期の連結業績予想を、売上高2,250億円、営業利益120億円、経常利益119億円、当期純利益58億円に修正しました。

なお、本日公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」では、通期の個別業績予想も修正しております。

## 4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

5. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	21,107	12,964
受取手形及び売掛金	80,994	74,701
有価証券	4,594	372
商品及び製品	21,749	23,384
仕掛品	1,255	1,412
原材料及び貯蔵品	9,642	10,750
繰延税金資産	2,067	2,510
その他	3,032	2,114
貸倒引当金	△679	△645
流動資産合計	143,765	127,564
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	81,190	81,022
減価償却累計額	△48,235	△46,455
建物及び構築物(純額)	32,955	34,566
機械装置及び運搬具	131,897	131,477
減価償却累計額	△108,076	△104,814
機械装置及び運搬具(純額)	23,821	26,663
工具、器具及び備品	19,739	19,460
減価償却累計額	△17,225	△16,445
工具、器具及び備品(純額)	2,514	3,014
土地	26,627	26,572
リース資産	64	56
減価償却累計額	△25	△12
リース資産(純額)	38	43
建設仮勘定	1,694	1,351
有形固定資産合計	87,652	92,211
無形固定資産	186	275
投資その他の資産		
投資有価証券	28,520	24,855
繰延税金資産	1,777	5,237
その他	11,381	11,297
貸倒引当金	△825	△753
投資その他の資産合計	40,853	40,638
固定資産合計	128,692	133,125
資産合計	272,458	260,689

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	41,552	33,417
短期借入金	29,836	30,016
未払法人税等	851	604
その他	12,124	12,312
流動負債合計	84,366	76,350
固定負債		
長期借入金	44,044	44,104
繰延税金負債	1,542	1,444
退職給付引当金	1,348	1,315
役員退職慰労引当金	31	228
その他	381	222
固定負債合計	47,347	47,315
負債合計	131,714	123,666
純資産の部		
株主資本		
資本金	31,733	31,733
資本剰余金	32,920	32,920
利益剰余金	82,159	79,827
自己株式	△1,714	△252
株主資本合計	145,099	144,229
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△1,605	△3,756
為替換算調整勘定	△8,264	△8,722
評価・換算差額等合計	△9,869	△12,478
少数株主持分	5,515	5,272
純資産合計	140,744	137,022
負債純資産合計	272,458	260,689

(2) 四半期連結損益計算書  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
売上高	188,784	168,162
売上原価	152,397	128,885
売上総利益	36,386	39,276
販売費及び一般管理費		
荷造運搬費	4,824	4,264
給料及び手当	7,802	7,257
賞与	1,808	1,779
福利厚生費	1,956	1,751
減価償却費	1,287	974
研究開発費	2,062	1,941
その他	12,565	11,195
販売費及び一般管理費合計	32,307	29,165
営業利益	4,079	10,111
営業外収益		
受取利息	122	93
受取配当金	529	459
為替差益	—	82
持分法による投資利益	139	—
その他	925	870
営業外収益合計	1,717	1,506
営業外費用		
支払利息	909	828
為替差損	762	—
持分法による投資損失	—	84
その他	493	505
営業外費用合計	2,164	1,419
経常利益	3,631	10,198
特別利益		
固定資産売却益	179	11
投資有価証券売却益	—	12
その他	2	—
特別利益合計	182	24
特別損失		
固定資産除売却損	319	205
投資有価証券評価損	3,082	—
たな卸資産評価損	511	—
事業撤退損	290	—
関係会社厚生年金基金脱退損	—	81
その他	27	48
特別損失合計	4,232	335
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△417	9,887
法人税、住民税及び事業税	1,060	1,268
法人税等調整額	261	3,064
法人税等合計	1,321	4,332
少数株主利益	518	501
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△2,257	5,054



## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△417	9,887
減価償却費	9,417	8,081
受取利息及び受取配当金	△652	△553
支払利息	909	828
有形固定資産売却損益(△は益)	△161	—
有形固定資産除却損	192	114
投資有価証券評価損益(△は益)	3,082	—
持分法による投資損益(△は益)	△139	84
売上債権の増減額(△は増加)	△1,577	△6,325
たな卸資産の増減額(△は増加)	△4,886	3,374
仕入債務の増減額(△は減少)	4,738	7,713
その他	△1,332	△503
小計	9,172	22,702
利息及び配当金の受取額	697	551
利息の支払額	△761	△658
法人税等の支払額	△2,756	△1,024
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,352	21,570
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△175	△454
定期預金の払戻による収入	424	506
有形固定資産の取得による支出	△7,230	△3,859
有形固定資産の売却による収入	701	32
投資有価証券の取得による支出	△1,089	△933
投資有価証券の売却による収入	202	249
長期貸付けによる支出	—	△10
長期貸付金の回収による収入	—	205
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	56	—
その他	△4	118
投資活動によるキャッシュ・フロー	△7,114	△4,146
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	7,935	△606
長期借入れによる収入	96	—
長期借入金の返済による支出	△717	—
配当金の支払額	△3,209	△2,625
少数株主への配当金の支払額	△205	△267
自己株式の取得による支出	—	△1,463
その他	12	△58
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,911	△5,019
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1,730	△29
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,419	12,374
現金及び現金同等物の期首残高	12,086	12,468
現金及び現金同等物の四半期末残高	13,506	24,842

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

〔事業の種類別セグメント情報〕

前第3四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)

	印刷 インキ (百万円)	グラフィック アーツ 関連機器 及び材料 (百万円)	高分子 関連材料 (百万円)	化成品及び メディア 材料 (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高								
(1) 外部顧客に 対する売上高	81,340	19,910	39,427	43,468	4,637	188,784	—	188,784
(2) セグメント間 の内部売上高 又は振替高	633	35	1,480	1,438	918	4,506	(4,506)	—
計	81,974	19,945	40,908	44,906	5,555	193,290	(4,506)	188,784
営業利益	4,093	453	2,450	5,187	112	12,297	(8,218)	4,079

当第3四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)

	印刷 インキ (百万円)	グラフィック アーツ 関連機器 及び材料 (百万円)	高分子 関連材料 (百万円)	化成品及び メディア 材料 (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高								
(1) 外部顧客に 対する売上高	72,432	18,177	36,424	37,558	3,567	168,162	—	168,162
(2) セグメント間 の内部売上高 又は振替高	497	45	1,246	1,025	861	3,676	(3,676)	—
計	72,930	18,223	37,671	38,584	4,429	171,838	(3,676)	168,162
営業利益	6,921	226	5,247	4,866	41	17,302	(7,191)	10,111

(注) 1 事業区分は製品系列を基礎とし、市場の類似性も考慮して区分しております。

2 各事業の主要な製品

(1) 印刷インキ……………オフセットインキ、グラビアインキ等

(2) グラフィックアーツ関連機器及び材料……印刷機械、印刷機器、プリプレスシステム、印刷材料、  
グラビアシリンダー製版等

(3) 高分子関連材料……………缶用内外面塗料、金属インキ、樹脂、接着剤、ワックス、  
塗工材料等

(4) 化成品及びメディア材料……………有機顔料、加工顔料、合成樹脂着色剤、着色樹脂、カラー  
フィルター用材料、電子材料、インクジェット材料等

(5) その他……………天然材料、役務提供等

〔所在地別セグメント情報〕

前第3四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)

	日本 (百万円)	アジア・ オセアニア (百万円)	ヨーロッパ (百万円)	北米 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に 対する売上高	133,299	48,076	1,858	5,549	188,784	—	188,784
(2) セグメント間 の内部売上高 又は振替高	11,363	2,904	1,008	39	15,315	(15,315)	—
計	144,662	50,981	2,866	5,589	204,100	(15,315)	188,784
営業利益又は 営業損失(△)	1,427	2,632	△610	△22	3,427	651	4,079

当第3四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)

	日本 (百万円)	アジア・ オセアニア (百万円)	ヨーロッパ (百万円)	北米 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に 対する売上高	122,681	40,298	858	4,324	168,162	—	168,162
(2) セグメント間 の内部売上高 又は振替高	12,892	1,717	856	29	15,496	(15,496)	—
計	135,573	42,015	1,714	4,353	183,658	(15,496)	168,162
営業利益又は 営業損失(△)	7,840	2,404	△643	△184	9,417	693	10,111

(注) 1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2 日本以外の区分に属する主な国又は地域

(1) アジア・オセアニア……………中華人民共和国、台湾、タイ、大韓民国、オーストラリア、マレーシア

(2) ヨーロッパ……………フランス、ベルギー

(3) 北米……………アメリカ

〔海外売上高〕

前第3四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)

	アジア・ オセアニア	ヨーロッパ	北米・中南米	アフリカ	計
I 海外売上高 (百万円)	50,392	1,995	6,203	142	58,733
II 連結売上高 (百万円)					188,784
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合 (%)	26.7	1.0	3.3	0.1	31.1

当第3四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)

	アジア・ オセアニア	ヨーロッパ	北米・中南米	アフリカ	計
I 海外売上高 (百万円)	42,405	879	4,484	108	47,878
II 連結売上高 (百万円)					168,162
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合 (%)	25.2	0.5	2.7	0.1	28.5

(注) 1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2 各区分に属する主な国又は地域

- (1) アジア・オセアニア……………中華人民共和国、台湾、大韓民国、タイ、オーストラリア
- (2) ヨーロッパ……………イタリア、ドイツ
- (3) 北米・中南米……………アメリカ、カナダ
- (4) アフリカ……………ナイジェリア、エジプト

3 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高(ただし、連結会社間の内部売上高を除く)であります。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。